

## 設計主旨 みんなが集う、街の大きなテント

主に軽自動車、小型車を販売する自動車販売店舗の建て替え、新築である。

建築主の店舗開発エリアである静岡県には居住人口が少ない小規模店舗エリアが多くあり、そのような店舗ではあまり予算もかけられない分デザイン性などが低く、雰囲気の良い店舗が作れないという問題を抱えていた。そこで、今回の小笠中央店も同様エリアの小規模店舗の為、これからの小規模店舗のロールモデルとしての内容を提案してほしいとの要望を受けた。

また、所在地周辺には目印となるような建物があまりない為、地域のランドマークとなってほしい、そして、ターゲット層である30代の女性客でも入りやすく、また来たいと思えるカフェのような居心地の良い店舗にしてほしいとの要望も合わせて受けた。

そこで私たちは、「みんなが集う、街の大きなテント」をテーマに掲げ、大きなテントに見立てた大らかな白い勾配屋根を全面ガラスの上に軽快に架け、敷地に沿っている交差点から目を引く、特徴的な意匠とした。街のランドマークの下に地域の人たちが集まってくるようなイメージである。

全面ガラスによる透明性により内部の活動が外部から見えるが、敷地と接する歩道、道路との間に適度に植栽するこ

とにより、内外それぞれからの視線が直接的にならないように緩和し、外部からの入店のしやすさ、内部の居心地の良さを意識している。また、従来の自動車販売店舗とは一線を画し木造で実現させたことで、従来の無機質なイメージを一新。木構造材表し、更に内装仕上げや造作家具にもアクセントとして木を使用し、木質感溢れる温かみや安らぎのある空間として人々を惹きつけ、また来店したい店舗という印象が残るよう設計した。

また、小規模店舗のロールモデルとして、従来の自動車販売店舗ではあまり採用しない木造や建材としてはサイディングなどを採用し、一般木造住宅を建築するイメージで施工難易度を下げ、汎用性を持たせた。また、木構造体は一般流通材の規格品を使用。サッシもビル用ではなくフロントサッシと住宅用サッシを併用するなど、コストを抑える工夫をした。

構造材にはしずおか優良木材のヒノキとスギを使用。組み方もスチール製ブレースと木構造体を併用し、軽快さを表現できるよう検討を重ねた。柱は本数と位置を整理し、特にショールーム棟の商談スペースは可変性の高いワンルーム空間とした。柱はサービス待合、商談、キッズスペースなどエリアごとの使いやすさを考慮した位置とし、空間がブレースにより分断されないようにした。また、敢えて作り付け家具などで使い方を限定

せず、店舗としての持続可能性に配慮した。

屋根と天井についてはダブル折板とし、コストを抑えることと軽快さの表現の両立が叶った。更に、天井断熱と雨音などの騒音へも対策している。

屋根を折板にしたことで、特に前面道路側に下がる大屋根の雨水処理については私たちチームの中でも考え方が分かれ、折板の途中に穴を開け、折板の下に樋を取り付けて受けるか、砂利と植栽帯とした地面に垂れ流すか議論となった。大雨の日の現場状況も確認した上で最終的に建築主と話し合ったところ、建築主からは屋根から落ちる雨やその雨が草木に落ちる様を見て自然を感じるのも、この地域にあるこの店舗の良さではないかと言っていたが、大屋根には樋を取り付けないこととなった。

このように建築主から違う目線がもたらされ、視野が広がりはっとさせられることも多い。設計者目線だけではなく、エンドユーザー目線に立った建築主と共に作り上げていく面白さや大切さを改めて感じた。

また、ロールモデル店舗として、SDGsの考え方も当初からコンセプトの柱の1つとして掲げ、積極的に取り入れるべきと考えた。

建築主は日ごろから地域に根差した運営を非常に大切にされており、その意味でも特に地域産木材の利用には地産地消や地域貢献の象徴として毎店舗力を入れている。

今回は構造材以外にも特に来店客からも手に触れやすく印象に残りやすい、受付カウンター周辺の壁や造作家具に地域産のスギの羽目板を貼った。敢えて節あり材にしたのはその方がリアリティがあるという建築主の要望による。

また、極力新建材を使用しないこととし、ショールーム棟商談スペースの床はモルタル金鍍仕上げと磁器質タイルの貼り分けとした。磁器質タイルは全面ガラスサッシの外や屋外テラスにも貼り伸ばされ、空間の広がりや内外の繋がりを感ぜさせる。

タイルカーペットや長尺シートも環境配慮型やロングライフ、持続可能性の高い製品を意識的に選定した。客用エリアの壁は珪藻土クロス仕上げ、外壁のサイディングは原料の半分以上に国産木材の間伐材や端材のチップを使用したものを採用した。

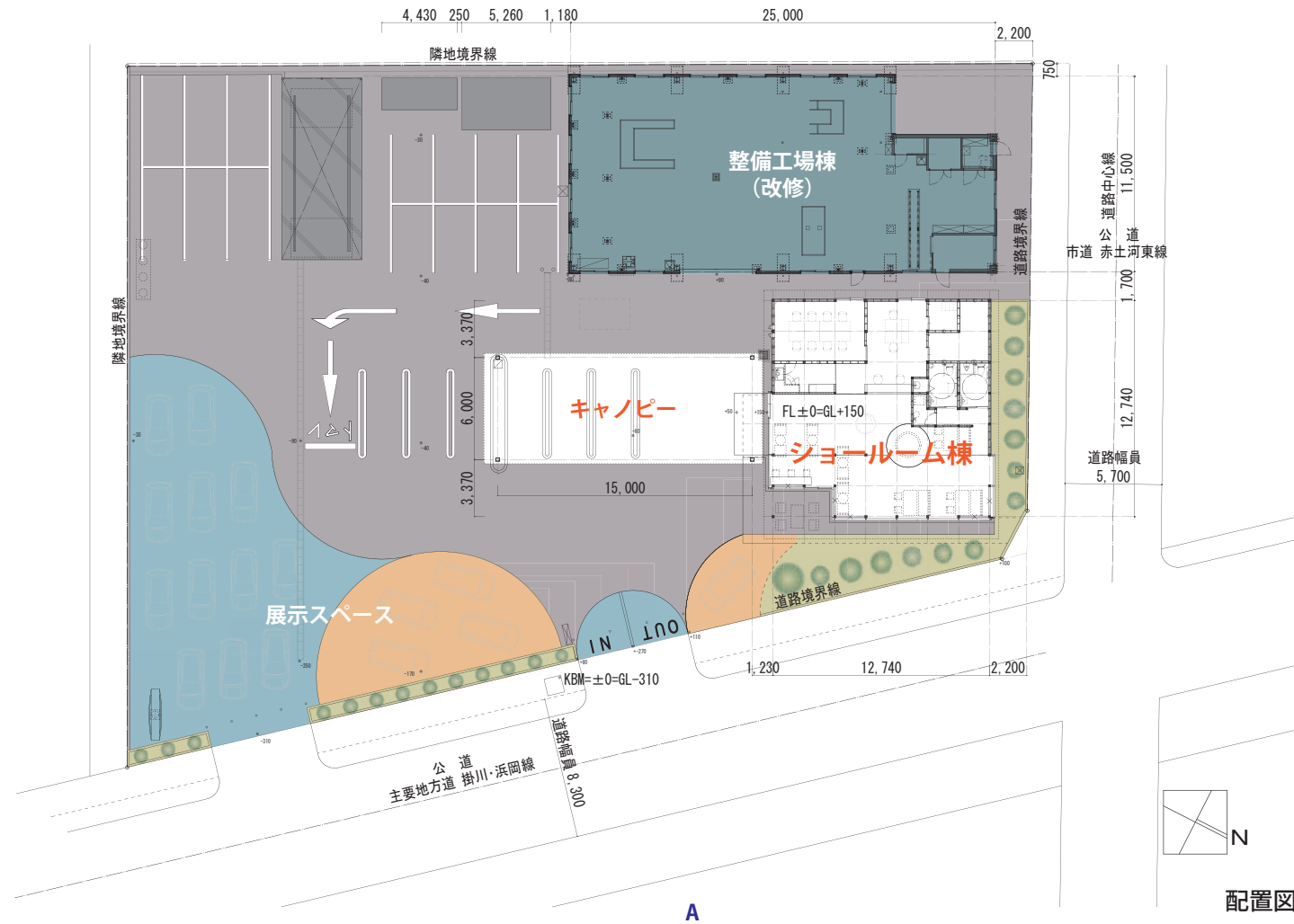
また、建築主は他店舗でのメンテナンスの大変さから、植栽に対して消極的ではあったが、自然に接することで幸福感を高めるバイオフィリックデザインの考え方を伝え、ショールーム棟の内外に取り入れた。



北東から建物正面を望む。

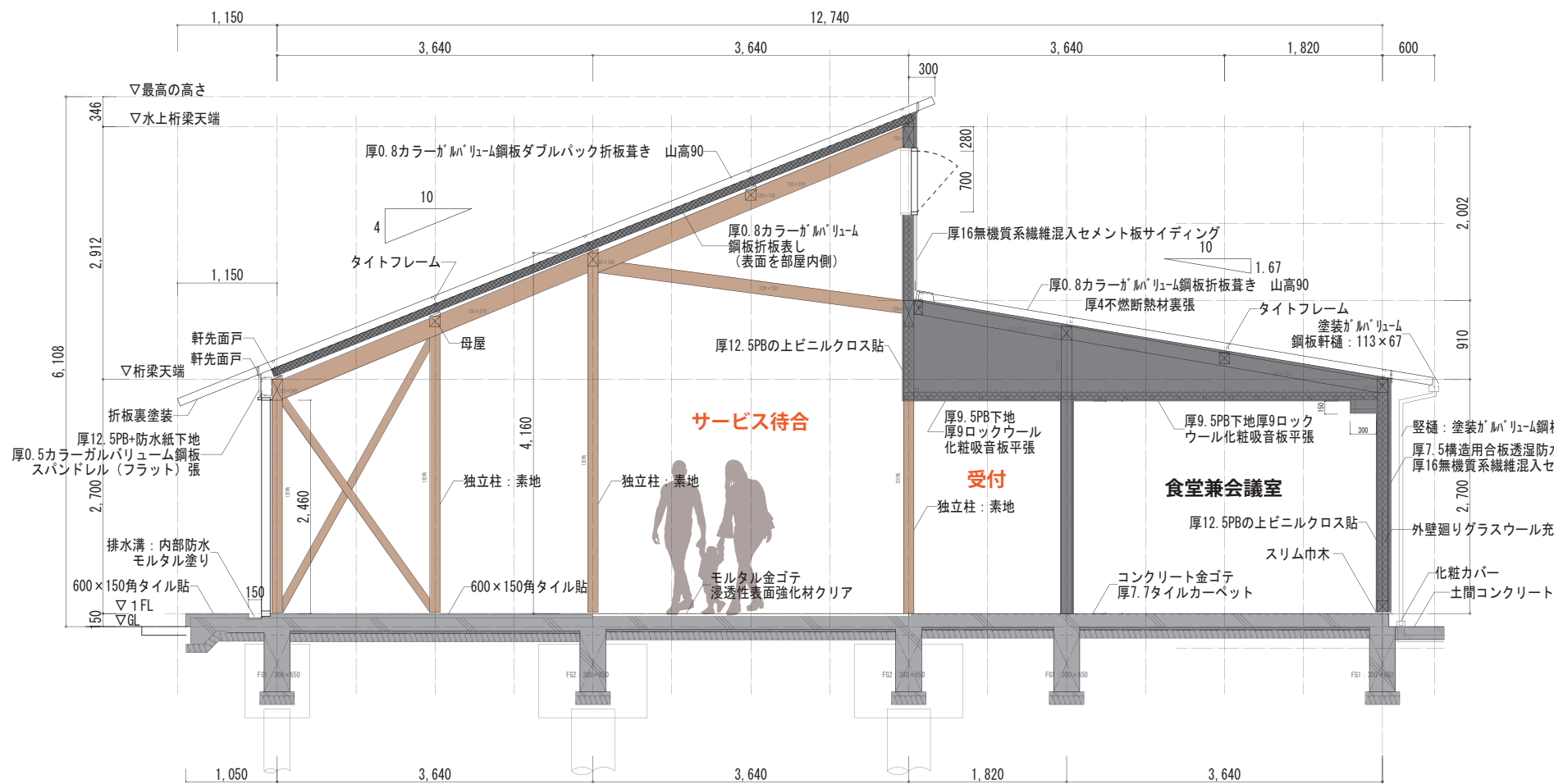


東側鳥瞰

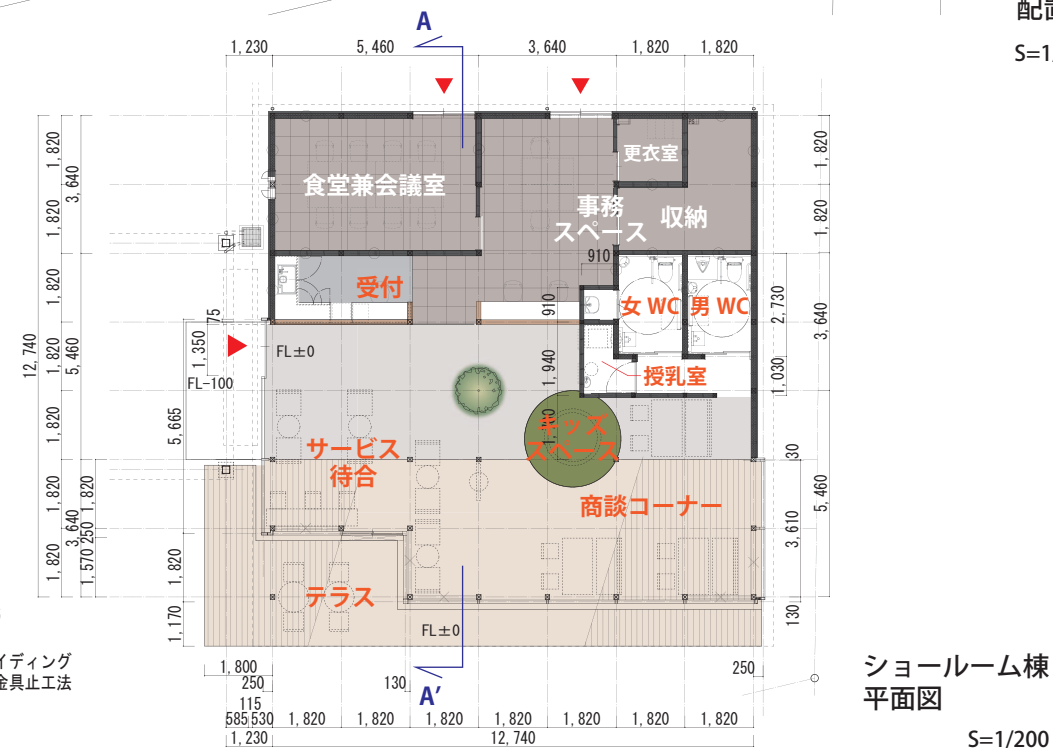


配置図

S=1/400



A-A' 断面図



ショールーム棟  
平面図

S=1/200

**建築概要**

所在地	: 静岡県菊川市赤土	工期	: 2022年2月1日~7月29日
計画区域	: 都市計画区域内 区域区分非設定	最高高さ	: 6.108m
用途地域	: 第一種住居地域、近隣商業地域	敷地面積	: 1,850.60 m <sup>2</sup>
防火地域	: 指定なし	建築面積	: 559.73 m <sup>2</sup>
その他	: 法第22条区域、都市計画道路	延床面積	: 459.68 m <sup>2</sup>
主要用途	: 店舗 (自動車販売店舗)	建蔽率	: 30.25%
構造	: 木造 一部鉄骨造 (キャンपी)	容積率	: 24.84%
階数	: 地上1階		



東側から望む。カバー工法にて改修した整備工場棟と塗装し直した植栽帯の縁石は同じモスグリーン色で合わせた。植栽、白い屋根と相性が良い。



北側交差点から望む。大らかな白い勾配屋根が目を引き。



東側近景。ショールーム棟入口横にはテラスを設けた。その手前にはシンボルツリーを植栽。



#### 主な外部仕上げ

屋根：厚 0.8 カラーガルバリウム鋼板ダブル折板葺き  
外壁：厚 16 無機質系繊維混入セメント板（サイディング）

北東側正面外観 夕景。前面道路からライティングされたショールーム内部が見える。



ショールーム棟入口側から内部を望む。  
全ての木構造体はしずおか優良木材を使用  
受付周辺にも地元産のスギ羽目板を貼った



受付側から内部を望む。キッズスペースの遊具も地元産のヒノキを使用したもの。



レストルームエリアと男性 WC 入口。  
ピクトサインの色はジェンダーを意識し、グレーとした。

### 主な内部仕上げ

天井：厚 0.8 カラーガルバリウム鋼板ダブル折板表し（表し面：仕上塗装面）

壁：珪藻土クロス貼り

床：モルタル金鏝押さえ、厚 8 磁器質タイル貼り



入口周辺の木構造体近景。  
屋内植栽でも外部との繋がりを表現。  
照明器具を減らす為に、光量大きいペンダントと  
天井面を照らし反射光の効果もある上向き間接照明を併用。  
既製品家具も木製無垢材のものを使用している。